

第 部門

高齢者による「まちづくり活動」への参加条件の整備に関する研究

大阪工業大学工学部 学生員 阿部 洋典
 大阪工業大学工学部 学生員 山田 雄一郎
 大阪工業大学工学部 正会員 岩崎 義一

1.はじめに

1-1 背景と目的：近年、我が国では高齢化が急速に進みつつある。高齢者の増加とともに地域社会における高齢者の果たす役割と期待も大きくなると考えられる。

本研究では、高齢者が今まで培ってきた特技などを地域の人々に伝承し明るく元気な地域社会づくり(まちづくり)に貢献するための条件、問題を明らかにすることを目的に実施した。なお本稿ではまちづくり活動としてボランティアを取り上げ、参加の実態や意識構造などについて整理した。

1-2 研究方法：高齢者が現在行っている活動や、高齢者が感じている不安や問題をヒアリング(実施日:2004年8月28日)により調査した。その上で、実際にボランティア活動を行っている高齢者に、アンケート(実施日:2004年10月25日~11月6日、場所:いきいきエイジングセンター、回答数:82件)を実施した。

2. 高齢者のボランティア参加の実態

ボランティアに参加していると回答した高齢者は男性女性ともに概ね同じ割合であり、比較的元気と答えた人が多く、また世帯人数構成は2人あるいは1人が中心であり(約80%)、定年前の職業では会社員あるいは主婦が多かった(約65%)。年間に参加しているボランティアの数及び参加頻度は1件から複数件まで、及び、数10回から100回以上と、いずれも多岐に亘り個人差が大きい。

基本属性別に見ると(図-1)性別では、『ボランティアに参加することになったきっかけ』において男性は「社会貢献できるから」や「時間を有効利用したいから」という項目が女性より多く、女性は「特技などを活かしたいから」や「自分と同じ特技を持つ友達を作りたいから」といった社交性の意向の下で参加が動機付けられている。『まちづくりに活かせる特技・経験』においては、男性は「スポーツ」「ゲーム」が多く、女性は「歌・ダンス」「手芸・工芸」などが多い。『ボランティア参加への必要事項』としては、男性は「資金」や「場所・施設」等の個人では対応しがたい社会的支援を要する項目について必要性を感じている。一方、女性は「自分の健康」や「一緒にする人」の存在など個人的な要因が大きいといった男性と対照的な関係がみられる。

年齢別では、『ボランティアに参加することになったきっかけ』においては、高齢の高齢者では「自分と同じ特技を持つ友達を作りたいから」という動機の人が多い傾向にあった。『まちづくりに活かせる特技・経験』は、高齢の高齢者においては、「歌・ダンス」

「文化」「ゲーム」が多く特技が多様であり、若い高齢者は「手芸・工芸」が多かった。『ボランティア参加への必要事項』においては、若い高齢者は「時間」「支援組織の存在」「参加者の存在」など社会的支援を要する面での条件に強い関心を示し、高年齢層になるほど「自分の健康」などの個人的要因に強い関心を示している。

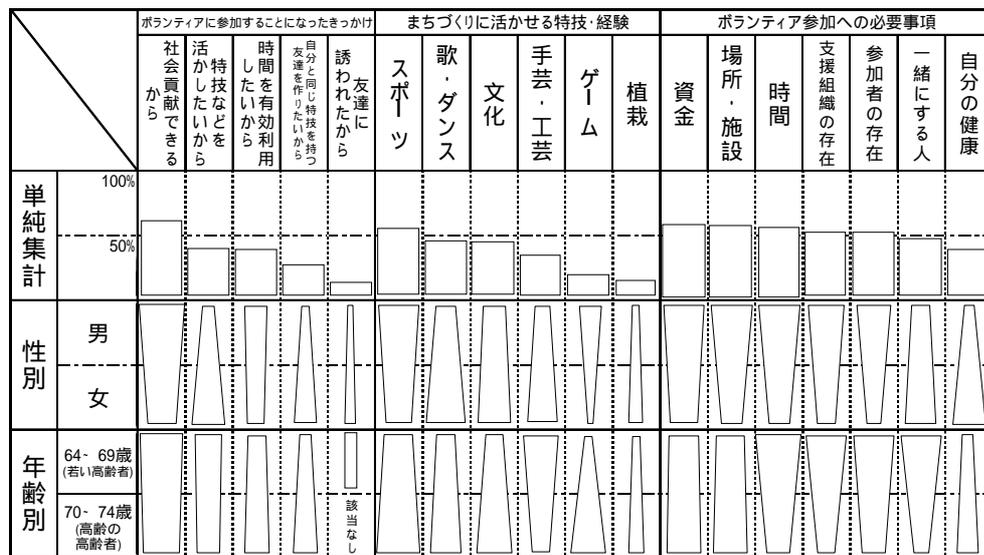


図-1 属性別集計

3. ボランティア参加への意識構造分析

ボランティアに取り組む条件をみるために『ボランティア参加への必要事項』におけるカテゴリーを用いて主成分分析を試みた(図-2)。これによると主成分1では「支援組織の存在」「場所・施設」などの社会的支援を要する面での値が大きく、「自分の健康」など個人的不安要素は値が低い中で、いずれもプラスであることから全般的課題がサイズファクターとして影響している。一方、主成分2では自分の健康の値が極めて大きいことから、「自分の健康」への意識を示す軸といえる。サンプルスコアを回答者の健康度意識と支援組織への意識の有無を同時に明示して付置してみると、今後の取組条件の多く(主に社会的支援関連項目)が影響する主成分第1軸で支援

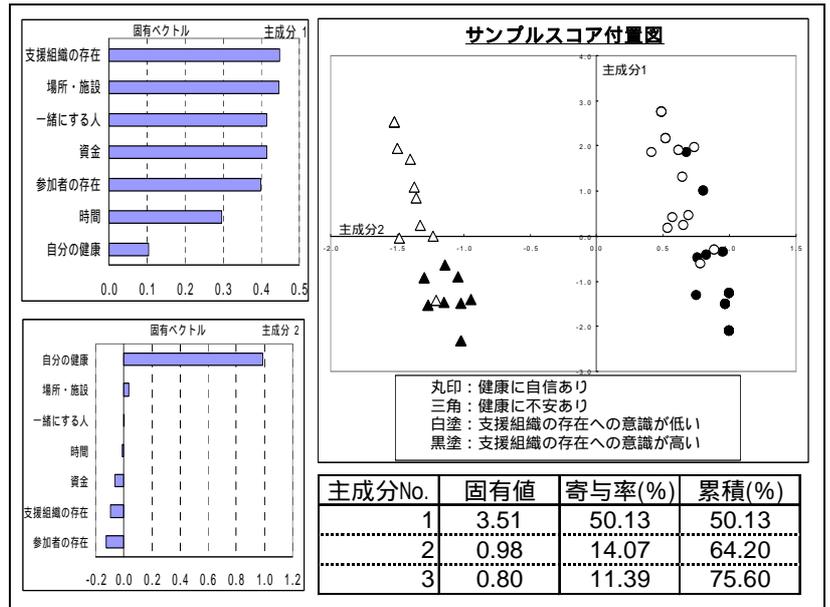


図-2 主成分分析の結果

組織の存在への意識が、また主成分第2軸で健康への自信の有無が、それぞれ明瞭に分類されていることがわかる。特に寄与率の関係から、主成分1のボランティア(まちづくり活動)への取組支援の重要性意識は注目すべきといえよう。

次に『ボランティア参加への必要事項』における「支援組織の存在」という意識が『ボランティアに参加することになったきっかけ』、また『まちづくりに活かせる特技・経験』との間で意識構造においてどのように関係付けられているか共分散構造分析を試みた。参加の動機付けに関する構成概念を明瞭にするために行った因子分析では、寄与率は総じて芳しくないが因子1で「特技を活かしたいから」、因子2で「友達に誘われたから」が大きい値(ウエイト0.5以上)を示したことから、これをそれぞれ「自己実現」と「社交性」の因子と位置づけた。この分析により、「支援組織への意識」が「自己実現」と「社交性」の2つの因子に影響を及ぼし、「自己実現」は「歌体操」「料理」、「社交性」は「マージャン」「グランドゴルフ」「登山」にそれぞれ関係付けられていると考えられる(図-3)。

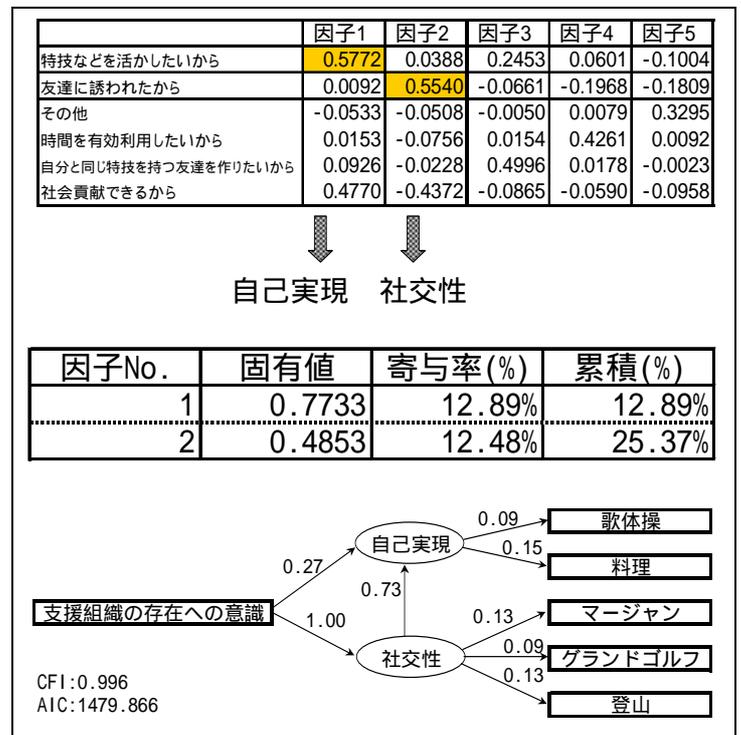


図-3 因子分析と共分散構造分析の結果

4. まとめ

高齢者はボランティアの参加においては、社会的支援を必要とする項目において重要と感じている人が多く、『まちづくりに活かせる特技・経験』が多岐に亘っていたことを勘案すると今後の高齢者によるまちづくりへの取組みに大きく影響すると考えられる。このことから、高齢者が安心してボランティア活動を行う為には社会的支援を行う環境の整備が喫緊の課題といえよう。また参加のきっかけとして「自己実現」や「社交性」といった意識が大きく影響していることから、地域での世代間交流や、外出を誘発するような道路や利用施設の整備などの高齢者の行動を支援する周辺環境の整備も必要であろう。